

## 審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等
<b>I 審議事項</b>					
<b>1. 委員会関係</b>					
提案1	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改正(新規設置2件) (2)委員会及び分科会委員の決定(新規2件、追加3件) (3)小委員会員の決定(新規4件)	(1)薬学委員会委員長、総合工学委員会委員長 (2)各部部長 (3)各部部長	B(5-10) 分科会の設置等に伴い、運営要綱を一部改正するとともに、分野別委員会における委員等を決定する必要があるため。	会長 各部部長	(1)会則第27条1項 (2)内規第18条、内規第12条1項
提案2	(課題別委員会) フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 (1)設置要綱の一部改正(小委員会の新規設置2件) (2)小委員会委員の決定(新規2件)	(1)フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会委員長 (2)会長	B(12-17) フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会の分科会に新規の小委員会を設置することに伴い、設置要綱の一部を改正するとともに、小委員会委員を決定する必要があるため。	高村副会長	(1)会則第27条第1項 (2)内規第18条
提案3	(課題別委員会) 自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会 (1)設置要綱の一部改正(小委員会の新規設置1件) (2)小委員会委員の決定(新規1件)	(1)自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会委員長 (2)会長	B(18-21) 自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会に新規の小委員会を設置することに伴い、設置要綱の一部を改正するとともに、小委員会委員を決定する必要があるため。	菱田副会長	(1)会則第27条第1項 (2)内規第18条
<b>2. 地区会議関係</b>					
提案4	地区会議運営協議会委員の追加について	科学者委員会委員長	B(22-23) 近畿地区会議運営協議会から科学者委員会に対し、連携会員を構成員に追加する旨の要請があったため。	望月副会長	地区会議運営要綱第6の2
<b>3. 提言等関係</b>					
提案5	提言「学術の振興に寄与する研究評価を目指して一定量的评价手法及び資源配分へのその利用の問い直しを中心に」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	科学者委員会委員長 研究評価分科会	C(1-98) 科学者委員会研究評価分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 <b>※科学者委員会査読</b>	科学者委員会研究評価分科会 武田洋幸委員長、三成美保副委員長、林隆之委員	内規3条1項
<b>4. 協力学術研究団体関係</b>					

提案6	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	B(24)	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①国際エクササイズサイエンス学会 ②一般社団法人日本歯科医学会連合  ※令和3年5月27日現在2,082団体（上記申請団体を含む）	望月副会長	会則36条
-----	-----------------------	-----------	-------	--	-------	-------

## 5. 国際関係

提案7	令和2年度及び令和3年度共同主催国際会議の取り扱いについて	会長	B(25-26)	令和2年度及び令和3年度共同主催国際会議の取り扱いについて決定する必要があるため。	高村副会長	国際交流事業に関する内規第34条1項
提案8	令和4年度共同主催国際会議候補の決定について	会長	B(27-29)	共同主催の申請があった令和4年度開催国際会議について、国際委員会国際会議主催等検討分科会の審議に基づき、以下の11件を候補として決定したい。  ・第22回世界災害救急医学会（WADEM Tokyo 2022） ・第36回国際コンピュータ支援放射線医学・外科学会議 ・第12回グローバルヤングアカデミー総会兼学会 ・第28回IUPAP統計物理学国際会議 ・第29回低温物理学国際会議 ・第12回教育におけるコンピュータに関する国際会議 ・第13回世界核医学会 ・第22回真空に関する国際会議 ・第29回国際高血圧学会 ・第20回CIGR（国際農業工学会）世界大会2022 ・第22回国際栄養学会議  ※国際委員会5月19日決定、同国際会議主催等検討分科会2月24日決定  ※最終的には閣議口頭了解（令和3年7月頃予定）をもって正式決定	高村副会長	国際学術交流事業に関する内規34条1項

## 6. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

提案9	「コロナ禍を共に生きる」「新型コロナウイルス感染症の最前線 - what is known and unknown#2 - 新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性」	第二部部長	B(31-32)	主催：日本学術会議・日本医学会連合 日時：令和3年8月下旬から10月中予定（土曜または日曜開催） 場所：オンライン	—	内規別表第1
-----	---	-------	----------	---	---	--------

## 7. その他のシンポジウム等

提案10	公開シンポジウム「インセクトワールドー多様な昆虫の世界 IIー」	農学委員会委員長	B(33-34)	主催：日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会 共催：日本昆虫科学連合 日時：令和3年6月26日（土）13:00～16:45 場所：ウェブ開催 ※第二部承認	—	内規別表第1
------	----------------------------------	----------	----------	---	---	--------

提案11	公開シンポジウム 「安全工学シンポジウム2021」	総合工学委員会委員長 機械工学委員会委員長	B(35-39)	主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 日時：令和3年6月30日（水）～7月2日（金）9:40～18:50 場所：オンライン配信 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案12	公開シンポジウム 「コロナ下において考えるべき栄養」	食料科学委員会委員長	B(40-41)	主催：日本学術会議 食料科学委員会・農学委員会・健康生活科学委員会 合同IUNS分科会 共催：公益社団法人日本栄養・食糧学会 日時：令和3年7月3日（土）15:00～17:00（予定） 場所：ウェブ開催 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム 「生存情報学—人類的、社会的課題に対して、情報学としていかに取り組み生き延びるか」	情報学委員会委員長	B(42-43)	主催：日本学術会議情報学委員会環境知能分科会 日時：令和3年7月19日（月）14:30～17:00 場所：オンライン配信 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案14	公開シンポジウム 「ジェンダード・イノベーション（Gendered Innovations）」	第三部長・科学者委員会委員長	B(44-47)	主催：日本学術会議第三部、中国・四国地区会議、国立大学法人広島大学 日時：令和3年8月18日（水）13:30～17:45 場所：広島大学（オンライン開催） ※第三部、科学者委員会承認	—	内規別表第1
提案15	公開シンポジウム 「オープンサイエンスをめざしたデジタル農業の胎動」	食料科学委員会委員長	B(48-49)	主催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農業情報システム学分科会、日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、日本生物環境工学会 後援：日本農業工学会、農業情報学会、農業食料工学会、農業農村工学会、農業施設学会、日本農業気象学会、生態工学会、園芸学会（すべて予定） 日時：令和3年9月8日（水）13:15～15:50 場所：神戸大学農学部 C101教室（神戸市灘区六甲台町1-1） ※第二部承認	—	内規別表第1
提案16	公開シンポジウム 「進化・発生・メカニカルストレスから探る顎顔面形成・維持機構最先端」	歯学委員会委員長	B(50-51)	主催：日本学術会議歯学委員会 臨床系歯学分科会 共催：公益社団法人 日本矯正歯科学会 日時：令和3年11月5日（金）10:30～12:30（予定） 場所：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市） ※第二部承認	—	内規別表第1
提案17	公開シンポジウム 「原発事故から10年—これまで・今・これからの農業現場を考える」	農学委員会委員長	B(52-53)	主催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会・IUSS分科会 共催：（一社）日本土壌肥料学会、国際土壌科学連合（IUSS） 後援：福島県農業総合センター、福島大学、農研機構 日時：令和3年11月5日（金）10:20～16:30 場所：パルセいいざか（〒960-0201 福島県福島市飯坂町筑前27-1） ※第二部承認	—	内規別表第1

提案18	公開シンポジウム 「キャピテーション に関するシンポジウ ム（第20回）」	機械工学委員会委 員長	B(54-55)	主催：日本学術会議機械工学委員会 日時：令和3年12月9日（木）13:00～ 18:00 12月10日（金）9:00～16:00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表 第1
提案19	公開シンポジウム 「口腔疾患の予防・ 治療・保健教育の場 も喫煙防止・禁煙支 援指導などの喫煙対 策の場として活用す べきである」	健康・生活科学委 員会委員長	B(56-58)	主催：日本学術会議健康・生活科学委員 会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現 分科会 日時：令和3年12月12日（日）14:20～ 17:00 場所：名古屋国際会議場（愛知県名古屋 市） ※第25回日本顎顔面インプラント学会学 術大会併催 ※新型コロナウイルス感染症の状況に よってはオンライン開催に変更 ※第286回幹事会（第24期・令和2年1月 30日）において承認済みの公開シンポジ ウムについて、日時、開催場所、構成等 変更するもの。 ※第二部承認	—	内規別表 第1

## II その他

件名		資料(頁)
1.	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は6月24日(木)13:30～開 催。	D(1)

分野別委員会運営要綱の一部を次のように改正する。

改正後					改正前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
薬学委員会	薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会合同先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会	レギュレーション組成システムのデザインにおける課題、ルール・オブ・ルール整備と運用のあり方、シンポジウムの内容、提言の内容について審議する。	20名以内の会員又は連携会員	令和3年5月27日～令和5年9月30日			(新規設置)		
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会	(略)	(略)	(略)	総合工学委員会	総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会	1. 化学兵器の安全な処理に関する総合的対策の指針 2. ヒ素を含有する廃棄物の処理と安全対策 3. 海外の化学兵器処理の現状・留意点に係る審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和3年5月27日～令和5年9月30日			(新規設置)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会  
 合同分科会の設置について

分科会等名：先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○薬学委員会 政治学委員会 基礎医学委員会 総合工学委員会 機械工学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	医薬、医療機器、再生医療等における先端医療技術の利用ルールを迅速に整備していくための「仕組みづくり」について多面的に議論し、社会実装におけるガバナンスとルール組成の在り方を提案することを目的とする。本分科会では、Good Guidance Practice や製品評価技術の適格性認定プログラム等の医療における「新技術や新製品の利用ルールや審査ルールをつくるルール」の整備を念頭に置く。ルール整備の初動から運用後の修正までの全体プロセスを明示し、幅広くステークホルダーを巻き込みながら、透明性と効率性を担保した先端医療におけるレギュレーション組成システムのデザインを目指す。
4	審議事項	レギュレーション組成システムのデザインにおける課題、ルール・オブ・ルール整備と運用のあり方、シンポジウムの内容、提言の内容について審議する。
5	設置期間	令和3年5月27日～令和5年9月30日
6	備考	※ 新規設置

総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する  
安全・安心・リスク検討分科会小委員会の設置について

分科会等名：老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する  
検討小委員会

1	所属委員会名	総合工学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>化学兵器禁止条約の批准により、我が国は日本国内に埋設されている老朽化学兵器ならびに中国に旧日本軍が遺棄した化学兵器を安全に廃棄する義務を負う。これら老朽・遺棄化学兵器は発掘や廃棄処理の際、内蔵する火薬類の燃焼・爆発や有害な化学物質等の漏えいなど多くのリスクがある。そして、ヒ素を含む化学兵器が多い点で世界的に未経験な技術課題があるといえる。このため、火薬類の爆発防止やヒ素を含む処理残渣等の安全な保管など安全対策について学術的に評価し、必要な提言を行うことを目的とする。</p> <p>中国に遺棄された化学兵器は、各地での発掘・処理が進展し、大量の埋設が想定されているハルバ嶺地区の処理施設が2015年度から稼働したが、コロナ禍で中断しており、その再開と処理能力の増強が課題となっている。また、国内では屈斜路湖、福岡県苅田港や千葉市で回収された化学弾の廃棄処理が進められてきたが、今後も各地で発見が予想される。我が国が廃棄すべき化学兵器は全てが地中や水底に埋蔵されており、未確認の埋蔵地も懸念される。</p> <p>また、諸外国においても、国際化学兵器禁止条約機関（OPCW）のもとに化学兵器処理が進展している。このため、海外の状況も参照し、安全で効率的な廃棄の進捗を促し、実際に生じている問題点を学術的観点から指摘し助言を行う。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 化学兵器の安全な処理に関する総合的対策の指針</li> <li>2. ヒ素を含有する廃棄物の処理と安全対策</li> <li>3. 海外の化学兵器処理の現状・留意点</li> </ol> <p>に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	令和3年5月27日 ～ 令和5年9月30日
6	備考	

【委員会及び分科会】

○委員の決定（新規2件）

（農学委員会地域総合農学分科会）

氏名	所属・職名	備考
小田切徳美	明治大学農学部教授	連携会員
仁科 弘重	愛媛大学学長	第二部会員
大黒 俊哉	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	連携会員
大政 謙次	高崎健康福祉大学農学部長・教授、東京大学 名誉教授	連携会員
加藤 千尋	弘前大学農学生命科学部助教	連携会員
真木 太一	九州大学名誉教授	連携会員
宮崎 毅	東京大学名誉教授	連携会員
武藤 由子	岩手大学農学部食料生産環境学科准教授	連携会員
弓削 こずえ	佐賀大学農学部准教授	連携会員

【設置予定：第312回幹事会（令和3年5月27日）、決定後の委員数：9名】

（薬学委員会・政治各委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会合同  
先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会）

氏名	所属・職名	備考
佐治 英郎	京都大学特任教授 京都大学名誉教授	第二部会員
望月 眞弓	慶應義塾大学名誉教授・薬学部特任教授	第二部会員
光石 衛	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員
新井 洋由	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 理事・審査センター長	連携会員
井上純一郎	東京大学特命教授	連携会員
加納 信吾	東京大学大学院新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻バイオイノベーション 政策分野教授	連携会員
合田 幸広	国立医薬品食品衛生研究所 所長	連携会員
白尾 智明	群馬大学副学長・重粒子線医学推進機構 長	連携会員

城山 英明	東京大学大学院法学政治学研究科教授	連携会員
関野 祐子	東京大学大学院薬学系研究科特任教授	連携会員
林 裕子	山口大学大学院技術経営研究科教授(特命)	連携会員
松本洋一郎	東京大学名誉教授	連携会員

【設置予定：第 312 回幹事会（令和 3 年 5 月 27 日）、決定後の委員数：12 名】

○委員の決定（追加 3 件）  
（地域研究委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
栗田 禎子	千葉大学大学院人文科学研究院教授	第一部会員
黒崎 卓	一橋大学経済研究所教授	第一部会員
春山 成子	三重大学名誉教授	第三部会員

【設置：常置の委員会、決定後の委員数：10 名】

（総合工学委員会総合工学企画分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
吉村 忍	東京大学副学長・大学院工学系研究科教授	第三部会員

【設置：第 304 回幹事会（令和 2 年 11 月 26 日）、追加決定後の委員数：14 名】

（総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小野 恭子	国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門主任研究員	連携会員

【設置：第 303 回幹事会（令和 2 年 10 月 29 日）、追加決定後の委員数：26 名】

【小委員会】

○委員の決定（新規 4 件）

（環境学委員会環境思想環境教育分科会環境教育の思想的アプローチ検討小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
蟹江 憲史	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授	連携会員
豊田 光世	新潟大学佐渡自然共生科学センター准教授	連携会員

【設置予定：第 312 回幹事会（令和 3 年 5 月 27 日）、決定後の委員数：9 名】

（総合工学委員会機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会老朽及び遺棄化学兵器の廃案に係るリスク評価とリスク管理に関する小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小野 恭子	国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門主任研究員	連携会員
辻 佳子	東京大学環境安全研究センター教授	連携会員
松岡 猛	宇都宮大学基盤教育研究センター非常勤講師	連携会員

【設置予定：第 312 回幹事会（令和 3 年 5 月 27 日）、決定後の委員数：12 名】

（総合工学委員会原子力安全に関する分科会社会のための継続的イノベーション検討小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
吉村 忍	東京大学副学長・東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員
小野 恭子	国立研究開発法人産業総合研究所安全科学研究部門主任研究員	連携会員
越塚 誠一	東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授	連携会員
関村 直人	東京大学副学長・東京大学大学院工学系研究科教授	連携会員
松岡 猛	宇都宮大学地域創生推進機構宇大アカデミー非常勤講師	連携会員
矢川 元基	公益財団法人原子力安全研究協会会長・東京大学名誉教授	連携会員

【設置予定：第 312 回幹事会（令和 3 年 5 月 27 日）、決定後の委員数：11 名】

（電気電子工学委員会通信電子システム分科会 ICT 分野の魅力・興味基軸の分析と創造小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
三瓶 政一	大阪大学大学院工学研究科教授	第三部会員
佐古 和恵	早稲田大学基幹理工学部教授	連携会員
仙石 正和	事業創造大学大学院大学 学長・教授	連携会員
中野 美由紀	津田塾大学学芸学部情報科学科教授	連携会員
原田 博司	京都大学大学院情報学研究科教授	連携会員
森川 博之	東京大学大学院工学系研究科教授	連携会員
山中 直明	慶応義塾大学理工学部教授	連携会員

【設置：第 308 回幹事会（令和 3 年 2 月 25 日）、決定後の委員数：14 名】



○フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会設置要綱（令和2年10月29日日本学術会議第302回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後				改正前			
(略)				(略)			
(分科会)				(分科会)			
第4 委員会に、次の表のとおり分科会 及び小委員会 を置く。				第4 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。			
分科会	調査審議事項	構成	設置期限	分科会	調査審議事項	構成	設置期限
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会	(略)	(略)	(略)	持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会	(略)	(略)	(略)
海の学びカリキュラム小委員会	1. フューチャー・アース計画が提起している教育と人材育成に関して、「海の学び」という視点からの諸課題の整理と検討 2. 学校における「海の学び」に関するカリキュラム開発に関すること	15名以内の会員若しくは連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者	設置期間： 令和3年5月27日～ 令和5年9月30日	(新規設置)			
ESD/SDGsカリキュラム小委員会	1. フューチャー・アース計画が提起している教育と人材育成に関して、SDGs とESD という視点からの諸課題の整理と検討	15名以内の会員若しくは連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者	設置期間： 令和3年5月27日～ 令和5年9月30日				

		<u>2. 学校における SDGs・ESD に関する カリキュラム開発 (地域社会との連携 も含めた探究的課題 について) に関すること</u>					
(略)					(略)		

附 則

この決定は、決定の日から施行する。



フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会  
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会小委員会の設置について

分科会等名：海の学びカリキュラム小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
2	委員の構成	15名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	<p>日本学術会議は国際学術会議（ISC）などが主導するフューチャー・アース（Future Earth）計画の理念に沿った研究等を推進するため、「フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会」を設置している。この委員会が優先的かつ緊急に取り組むべき課題の一つに、持続可能な発展のための教育と人材育成（education and capacity building for sustainable development）の推進がある。</p> <p>本小委員会は、この課題への具体的な取組等を、持続可能な発展のための教育と人材育成に関して、地球表面の三分の二を占め地球環境に大きな影響を及ぼす海を対象とした初等中等教育段階におけるカリキュラム開発を行うことを目的とする。</p>
4	審議事項	<p>1. フューチャー・アース計画が提起している教育と人材育成に関して、「海の学び」という視点からの諸課題の整理と検討</p> <p>2. 学校における「海の学び」に関するカリキュラム開発</p>
5	設置期間	令和3年5月27日～令和5年9月30日
6	備考	※新規設置

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会  
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会小委員会の設置について

分科会等名：ESD/SDGs カリキュラム小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
2	委員の構成	15名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	<p>日本学術会議は国際科学会議 (ICSU) などが主導するフューチャー・アース (Future Earth) 計画の理念に沿った研究等を推進するため、「フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会」を設置している。この委員会が優先的かつ緊急に取り組むべき課題の一つに、持続可能な発展のための教育と人材育成 (education and capacity building for sustainable development) の推進がある。</p> <p>本小委員会は、この課題への具体的な取組等を、持続可能な発展のための教育と人材育成に関して、国連の提起したSDGs (持続可能な開発目標) とそのための人材育成 (ESD) のカリキュラム開発について検討する。</p>
4	審議事項	<p>1. フューチャー・アース計画が提起している教育と人材育成に関して、SDGs と ESD という視点からの諸課題の整理と検討</p> <p>2. 学校におけるSDGs・ESDに関するカリキュラム開発 (地域社会との連携も含めた探究的課題について)</p>
5	設置期間	令和3年5月27日～令和5年9月30日
6	備考	※新規設置

**【課題別委員会】**

○委員の決定（新規2件）

（フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会海の学びカリキュラム小委員会）

氏名	所属・職名	備考
氷見山 幸夫	北海道教育大学名誉教授	連携会員
日置 光久	東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任教授	連携会員

**【設置予定：第312回幹事会（令和3年5月27日）、決定後の委員数：10名】**

（フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会ESD/SDGsカリキュラム小委員会）

氏名	所属・職名	備考
氷見山 幸夫	北海道教育大学名誉教授	連携会員

**【設置予定：第312回幹事会（令和3年5月27日）、決定後の委員数：7名】**

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会設置要綱（令和2年12月24日日本学術会議第306回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後				改正前			
(略)				(略)			
(分科会)				(分科会)			
第4 委員会に、次の表のとおり分科会 <u>及び小委員会</u> を置く。				第4 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。			
分科会	調査審議事項	構成	設置期限	分科会	調査審議事項	構成	設置期限
自動運転企画分科会	(略)	(略)	(略)	自動運転企画分科会	(略)	(略)	(略)
<u>自動運転と共創する未来社会検討小委員会</u>	<u>1. 急速に進む自動運転の社会実装状況の的確な把握及び関連する諸課題の整理と検討</u> <u>2. 未来社会との共創に関わる課題について審議し、分科会、親委員会に報告す</u>	<u>20名程度以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者</u>	<u>令和5年9月30日まで</u>	(新規設置)			

		<u>る</u> <u>3. 関連する研</u> <u>究者、研究プロ</u> <u>グラム及び研究</u> <u>機関・組織との</u> <u>連携及び情報発</u> <u>信に関すること</u>					
(略)					(略)		

附 則  
この決定は、決定の日から施行する。

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会  
 自動運転企画分科会  
 自動運転と共創する未来社会検討小委員会の設置について

小委員会等名： 自動運転と共創する未来社会検討小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会
2	委員の構成	20名程度以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>日本学術会議は第25期課題別委員会として、自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会を設置している。</p> <p>この課題別委員会では自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザインに関わる課題について分野横断的な審議を行うが、レベル3の市販車が世に出て、レベル4の実証実験も始まりつつある状況で、優先的かつ緊急に取り上げるべき課題を抽出して整理する必要がある。</p> <p>この急速に進展する現状について具体的な取り組みや課題等を整理し、第一線で活躍している若手中心の委員で構成された本小委員会において審議する。また将来社会との共創に関わる課題を審議する。その成果を整理して分科会に報告する。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急速に進む自動運転の社会実装状況の的確な把握及び関連する諸課題の整理と検討</li> <li>2. 未来社会との共創に関わる課題について審議し、分科会、親委員会に報告する</li> <li>3. 関連する研究者、研究プログラム及び研究機関・組織との連携及び情報発信に関すること</li> </ol>
5	設置期間	令和3年5月27日～令和5年9月30日
6	備考	新規設置

**【課題別委員会】**

○委員の決定（新規1件）

（自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会自動運転企画分科会自動運転と共創する未来社会検討小委員会）

氏名	所属・職名	備考
大倉 典子	芝浦工業大学名誉教授	第三部会員
小野 悠	豊橋技術科学大学大学院工学研究科講師	連携会員
鎌田 実	一般財団法人日本自動車研究所代表理事、研究所長	連携会員
永井 正夫	一般財団法人日本自動車研究所・顧問、東京農工大学名誉教授	連携会員
山川 みやえ	大阪大学大学院医学系研究科統合保健看護科学分野老年看護学准教授	連携会員

**【設置予定：第312回幹事会（令和3年5月27日）、決定後の委員数：16名】**

地区会議運営協議会委員の追加の決定について

○近畿地区会議運営協議会委員の追加について（追加委員）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
伊藤 宏幸	ダイキン工業株式会社テクノロジーイノベーションセンターリサーチコーディネーター	連携会員

※追加後の運営協議会委員数：9名

【参考】

●日本学術会議地区会議運営要綱（抄）

（地区会議運営協議会及び事務局）

第6 各地区に地区会議運営協議会を置き、当該地区の運営及び活動に関する事項を審議・決定する。

2 各地区に所属する会員は、互選により9名以内の地区会議運営協議会委員を選出する。その際、委員が特定の部に偏らないように配慮する。ただし、地区会議運営協議会から科学者委員会に要請があった場合は、科学者委員会及び幹事会の議を経て、当該地区に所属する会員又は連携会員の中から地区会議運営協議会委員を追加することができる。なお、委員の追加を認める場合も地区会議運営協議会の委員総数は12名を超えないものとする。

追加後

## 第 25 期近畿地区会議 運営協議会委員

◎：代表幹事

氏名	所属・職名	備考
◎小山田 耕二	京都大学学術情報メディアセンター教授	第三部会員
齋藤 政彦	神戸大学数理・データサイエンスセンター センター長	第三部会員
下條 真司	大阪大学サイバーメディアセンターセンタ ー長	第三部会員
高山 佳奈子	京都大学大学院法学研究科教授	第一部会員
光富 徹哉	近畿大学医学部外科学教室呼吸器外科部門 主任教授	第二部会員
村山 美穂	京都大学野生動物研究センター教授	第二部会員
矢野 桂司	立命館大学文学部教授	第一部会員
伊藤 公雄	京都産業大学客員教授	連携会員
伊藤 宏幸	<u>ダイキン工業株式会社テクノロジーイノベ ーションセンターリサーチコーディネータ ー</u>	<u>連携会員</u>

日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込み団体の概要

	団体名	概 要
1	<p>国際エクササイズサイエンス学会 (<a href="https://rehaac.org/exercise.html">https://rehaac.org/exercise.html</a>)</p>	<p>本団体は、エクササイズやリハビリテーション、医療に関わる科学者、研究者の有志が集い科学的な研究を行い、エクササイズの科学的・効率的方法を研究することで、国民の健康の向上に寄与することを目的とするものである。</p>
2	<p>一社) 日本歯科医学会連合 (<a href="http://www.nsigr.or.jp/">http://www.nsigr.or.jp/</a>)</p>	<p>本連合体は、加盟各分科会を束ね連携し、所属する会員、各分科会のけん引役として、歯科学研究、歯科学教育、歯科医療への情報、政策提言、研究成果等、社会に対して総合的に情報発信し、歯科医学および歯科医療の発展ならびに国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とするものである。</p>

## 令和 2 年度及び令和 3 年度共同主催国際会議の取り扱いについて

## (1) 令和 2 年度共同主催国際会議の取り扱いについて

平成 31 年 4 月 24 日第 277 回幹事会にて令和 2 年度共同主催国際会議として決定された以下の国際会議について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて当初計画されていた令和 2 年度に開催が困難となった会議 1 件について、下記のとおり取り扱う。

## ・ 第 29 回低温物理学国際会議：

令和 4 年度の共同主催国際会議とする。

## (令和 2 年度共同主催国際会議の取り扱い変更について)

会議名	変更点 (延期等)
2020 年炭素材料国際会議	(中止) ※
2020 年世界蛋白質科学会議	(中止) ※
第 29 回人工知能国際会議	令和 2 年度中の延期※
第 29 回低温物理学国際会議	令和 4 年度に延期
第 79 回国際法協会世界大会	(中止) ※
第 17 回世界地震工学会議	令和 3 年度に延期※
アジア熱科学会議 2020	令和 3 年度に延期※

※「2020 年炭素材料国際会議」「2020 年世界蛋白質科学会議」「第 29 回人工知能国際会議」「第 79 回国際法協会世界大会」「第 17 回世界地震工学会議」「アジア熱科学会議 2020」については、既に令和 2 年 5 月 28 日第 291 回幹事会にて取り扱いを決定されたもの。

(2) 令和3年度共同主催国際会議の取扱いについて

令和2年2月27日第287回幹事会にて令和3年度共同主催国際会議として決定された7件の国際会議について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて当初計画されていた令和3年度に開催が困難となった会議3件について、下記のとおり取り扱う。

- ・国際がん支持療法学会 2021 :  
令和5年度の共同主催国際会議として検討する。
- ・第12回教育におけるコンピュータに関する国際会議 :  
令和4年度の共同主催国際会議とする。
- ・第22回国際栄養学会議 :  
令和4年度の共同主催国際会議とする。

(令和3年度共同主催国際会議の取り扱い変更について)

会議名	変更点 (延期等)
国際がん支持療法学会 2021	令和5年度に延期
第12回教育におけるコンピュータに関する国際会議	令和4年度に延期
第22回国際栄養学会議	令和4年度に延期
国際計測連合第23回世界大会	(変更なし)
第19回国際動脈硬化学会議	(変更なし)
日本再生医療学会／国際幹細胞学会国際シンポジウム 2021	(変更なし)
第27回マグネット技術国際会議	(変更なし)
第17回世界地震工学会議※	令和2年度からの延期として追加済
第2回アジア熱科学会議※	令和2年度からの延期として追加済

※「第17回世界地震工学会議」「第2回アジア熱科学会議」については、令和2年2月27日第287回幹事会時点では令和3年度共同主催国際会議の候補ではなかったが、令和2年5月28日第291回幹事会において追加されたもの（新型コロナウイルス感染症の影響を受けて令和2年度から令和3年度の開催に延期されたため）。

## 令和4年度共同主催国際会議候補一覧

## ○今回、決定する11件（国際委員会国際会議主催等検討分科会決定、国際委員会承認）

会議名		開催予定情報				
<b>第22回世界災害救急医学会 (WADEM Tokyo 2022)</b> WADEM Congress on Disaster and Emergency Medicine 2022 (WADEM Congress) <b>：令和4年度会議として申請があった会議</b> ■母体団体：世界災害救急医学会 The World Association for Disaster and Emergency Medicine ■主催学会：第22回世界災害救急医学会 (WADEM Tokyo 2022) 組織委員会		参加人数	国外	640	同伴者	60
			国内	160	同伴者	25
			合計	800	合計	85
		国数	[60カ国・地域]			
期間	令和4年5月2日（月）～5月6日（金）[5日間]	会議内容	○会議テーマ：「災害医療の新たな挑戦に向けた次なる歩みへ」 ○主要題目：「過去の大規模災害で進化した災害医療体制」「COVID-19のパンデミック災害にどう立ち向かうか」「対テロリズム」「災害医療と公衆衛生対応の新しい視点」「仙台防災枠組と災害医学研究」「ASEAN災害医療連携強化プロジェクト」等			
場所	東京都新宿区（京王プラザホテル）					
間隔	2年ごと [日本開催：初]					
<b>第36回国際コンピュータ支援放射線医学・外科学会議</b> Computer Assisted Radiology and Surgery 36th International Congress and Exhibition (CARS2022) <b>：令和4年度会議として申請があった会議</b> ■母体団体：コンピュータ支援放射線医学・外科国際財団 International Foundation of Computer Assisted Radiology and Surgery (IFCARS) ■主催学会：一般社団法人日本コンピュータ外科学会		参加人数	国外	550	同伴者	50
			国内	750	同伴者	50
			合計	1,300	合計	100
		国数	[41カ国・地域]			
期間	令和4年6月7日（火）～11日（土）[5日間]	会議内容	○会議テーマ：「先端技術により実現する精密診断・治療」 ○主要題目：「医用画像（CT、MRI、超音波、新しいモダリティ）の生成・処理」「心臓血管系画像診断」「口腔・上顎顔面画像診断」「画像処理と表示」「手術支援ロボット」「スマート治療室・手術環境」「遠隔治療・情報通信・管理システム・セキュリティ」「診断・治療機器のレギュラトリーサイエンス」等			
場所	東京都港区（虎ノ門ヒルズ森タワー）及び東京都新宿区（東京女子医科大学）					
間隔	毎年 [日本開催：8年振り4回目]					
<b>第12回グローバルヤングアカデミー総会兼学会</b> The 12th Global Young Academy Annual General Meeting and Conference (GYA AGM) <b>：令和4年度会議として申請があった会議</b> ■母体団体：グローバルヤングアカデミー Global Young Academy (GYA) ■主催学会：グローバルヤングアカデミー		参加人数	国外	200	同伴者	0
			国内	300	同伴者	0
			合計	500	合計	0
		国数	[86カ国・地域]			
期間	令和4年6月12日（日）～6月17日（金）[6日間]	会議内容	○会議テーマ：「感性と理性のリバランス：包括性と持続性に向けた科学の再生」 ○主要題目：「科学知と在来知の発展的融合」「科学者と社会のコミュニケーションの拡大」「市民の科学的プロセスへの参加」等			
場所	福岡県福岡市（九州大学伊都キャンパス椎木講堂及び九州大学病院キャンパス医学部百年講堂）					
間隔	毎年 [日本開催：初]					
<b>第28回IUPAP統計物理学国際会議</b> The IUPAP 28th International Conference on Statistical Physics (STATPHYS28) <b>：令和4年度会議として申請があった会議</b> ■母体団体：国際純粋・応用物理学連合 International Union of Pure and Applied Physics ■主催学会：第28回IUPAP統計物理学国際会議組織委員会及び一般社団法人日本物理学会		参加人数	国外	500	同伴者	0
			国内	500	同伴者	0
			合計	1,000	合計	0
		国数	[40カ国・地域]			
期間	令和4年8月8日（月）～8月12日（金）[5日間]	会議内容	○会議テーマ：「統計物理学、特に近年の発展と社会的応用にも繋がる諸分野との関連」 ○主要題目：「数理物理」「非平衡物理」「量子系」「不規則系」「生物物理」「ソフトマター」「非線形物理」「複雑系」等			
場所	東京都文京区（東京大学本郷キャンパス）					
間隔	3年ごと [日本開催：54年振り2回目]					
<b>第29回低温物理学国際会議</b>		参加人数	国外	500	同伴者	50

<b>29th International Conference on Low Temperature Physics (LT29)</b> <b>: 令和2年度からの延期となった会議</b> ■母体団体：国際純粋・応用物理学連合 International Union of Pure and Applied Physics (IUPAP) ■主催学会：第29回低温物理学国際会議組織委員会及び一般社団法人日本物理学会		参加人数 国内 1,000 同伴者 50 合計 1,500 合計 100 国数 [68カ国・地域]
期間 令和4年8月18日(木)～8月24日(水) [7日間] 場所 北海道札幌市(札幌コンベンションセンター及び北海道大学学術交流会館) 間隔 3年ごと [日本開催：20年振り3回目]	会議内容 ○会議テーマ：「量子力学が顕著に現れる低温における現象とその応用を研究する低温物理学」 ○主要題目：「量子気体、液体及び個体」「超伝導」「磁性および量子相」「ナノ物理学と量子情報」「低温技術とデバイス応用」等	
<b>第12回教育におけるコンピュータに関する国際会議</b> <b>The 12th International Conference on Computers in Education 2022 (WCCE 2022)</b> <b>: 令和3年度からの延期となった会議</b> ■母体団体：情報処理国際連合 International Federation for Information Processing (IFIP) ■主催学会：一般社団法人情報処理学会コンピュータと教育研究会及び一般社団法人情報処理学会教育学習支援情報システム研究会		参加人数 国外 300 同伴者 20 国内 200 同伴者 10 合計 500 合計 30 国数 [40カ国・地域]
期間 令和4年8月20日(土)～8月24日(水) [5日間] 場所 広島県広島市(広島国際会議場及び広島大学東千田キャンパス) 間隔 4年ごと [日本開催：初]	会議内容 ○会議テーマ：「創造的な学習を通じた共同的社会の構築」 ○主要題目：「教育における創造性と革新」「コンピューショナル・シンキングの探究」「コンピュータ科学教育における近年の発展」「新技術を統合した学習環境」「テクノロジーを通じた共同と実践の支援」等	
<b>第13回世界核医学会</b> <b>13th Congress of the World Federation of Nuclear Medicine and Biology (WFNMB)</b> <b>: 令和4年度会議として申請があった会議</b> ■母体団体：世界核医学会 World Federation of Nuclear Medicine and Biology (WFNMB) ■主催学会：一般社団法人日本核医学会		参加人数 国外 2,000 同伴者 0 国内 2,500 同伴者 0 合計 4,500 合計 0 国数 [71カ国・地域]
期間 令和4年9月4日(日)、9月7日(水)～9月13日(火) [8日間] 場所 京都府京都市(国立京都国際会館及びメルパルク京都)及び石川県金沢市(金沢市アートホール) 間隔 4年ごと [日本開催：48年振り2回目]	会議内容 ○会議テーマ：「過去半世紀の間、日夜研鑽を続けた世界の核医学の歴史を振り返り、未来に向けた今後半世紀の世界の核医学について議論し広く発信すること」 ○主要題目：「認知症の超早期診断」「前立腺癌の核医学治療」「人工知能への期待」「画像標準化」「機器開発」「核医学の未来」「社会経済への貢献」等	
<b>第22回真空に関する国際会議</b> <b>The 22nd International Vacuum Congress (IVC-22)</b> <b>: 令和4年度会議として申請があった会議</b> ■母体団体：真空に関する科学・技術の応用の連合 The International Union for Vacuum Science, Technique and Applications (IUVSTA) ■主催学会：公益社団法人日本表面真空学会		参加人数 国外 970 同伴者 30 国内 980 同伴者 20 合計 1,950 合計 50 国数 [54カ国・地域]
期間 令和4年9月11日(日)～9月16日(金) [6日間] 場所 北海道札幌市(札幌コンベンションセンター) 間隔 3年ごと [日本開催：27年振り3回目]	会議内容 ○会議テーマ：「未来の環境・エネルギー問題に挑戦する表面・真空科学」 ○主要題目：「表面反応」「トポロジカル材料」「2次元物質の合成と物性」「高密度プラズマ反応の解析と応用」「非蒸発型ゲッターポンプ」「ナノ粒子合成と触媒機能」「ソフトマター」「半導体ヘテロ界面の合成と光機能」等	
<b>第29回国際高血圧学会</b> <b>The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (ISH2022)</b> <b>: 令和4年度会議として申請があった会議</b> ■母体団体：国際高血圧学会 International Society of Hypertension (ISH) ■主催学会：特定非営利活動法人日本高血圧学会及び国際高血圧学会		参加人数 国外 1,465 同伴者 35 国内 2,485 同伴者 15 合計 3,950 合計 50 国数 [80カ国・地域]
期間 令和4年10月12日(水)～10月16日(日) [5日間]	会議内容 ○会議テーマ：「高血圧制圧の叡智」 ○主要題目：「高血圧とAI、食、運動」「グローバルヘルスと高血圧の多様性」「持続可能な開発目標(SDGs)と高血圧」「ライフコースと高血圧」「超高齢社会と高血圧」「血圧測定法：従来法の問題と将来の開発方向性」「高血圧管理のためのイメージングとバイオマー	

場所	京都府京都市（国立京都国際会館）								カー」「高血圧の病態生理：これまでの軌跡と未来への展開」「感染性疾患（COVID-19など）と非感染性疾患の収斂」「高血圧と全身疾患」「高血圧の次世代治療」「高血圧制圧のための
間隔	2年ごと [日本開催：16年振り3回目]								
<b>第20回CIGR（国際農業工学会）世界大会2022</b> <b>The XX CIGR World Congress 2022(CIGR WC2022)</b> <b>：令和4年度会議として申請があった会議</b>		参加人数	国外	393	同伴者	7			
<b>■母体団体：国際農業工学会</b> Commission Internationale de Génie Rural (CIGR)			国内	600	同伴者	0			
			合計	993	合計	7			
<b>■主催学会：日本農業工学会</b> Commission Internationale de Génie Rural (CIGR)		国数	[51カ国・地域]						
期間	令和4年12月5日（月）～12月10日（土）[6日間]	会議内容	○会議テーマ：「持続的農業生産－水、土壌、エネルギー、食料－」 ○主要題目：「土と水に関する工学」「施設と環境に関する工学」「植物生産における工学」「エネルギー」「システム管理」「バイオプロセス」「情報技術」等						
場所	京都府京都市（京都国立国際会館及び京都大学百周年記念館）								
間隔	4年ごと [日本開催：22年振り2回目]								
<b>第22回国際栄養学会議</b> <b>22nd IUNS-International Congress of Nutrition(22nd IUNS-ICN)</b> <b>：令和3年度からの延期となった会議</b>		参加人数	国外	2,000	同伴者	50			
<b>■母体団体：国際栄養科学連合</b> International Union of Nutritional Sciences(IUNS)			国内	2,000	同伴者	50			
			合計	4,000	合計	100			
<b>■主催学会：公益社団法人日本栄養・食糧学会及び特定非営利活動法人日本栄養改善学会</b>		国数	[115カ国・地域]						
期間	令和4年12月6日（火）～11日（日）[6日間]	会議内容	○会議テーマ：「栄養学の力で100億人を笑顔に！」 ○主要題目：「栄養学の最先端」「ライフステージをととした栄養」「栄養と疾病管理」「公衆栄養と食環境」「機能性食品と生理活性成分」等						
場所	東京都千代田区（東京国際フォーラム）								
間隔	4年ごと [日本開催：47年振り2回目]								

1. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等  
【令和3年度第2四半期】

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間10回程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和3年度第2四半期】 全1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案9	「コロナ禍を共に生きる」 「新型コロナウイルス感染症の最前線 - what is known and unknown#2 - 新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性」の開催について (案)	令和3年8月下旬から10月中予定(土曜または日曜開催)	オンライン	要	要

(参考) .....

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム (平日0件/土日4件) 全4件

(内訳) ※現在の4件中、4件は経費又は人的負担要

		第1四半期 (4月～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
学術フォーラム	(土日)	2	2		
	(平日)	0	0		
合計		2	2		

## 日本学術会議主催学術フォーラム

「コロナ禍を共に生きる」「新型コロナウイルス感染症の最前線 - what is known and unknown#2 - 新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性」  
の開催について(案)

1. 主 催：日本学術会議、日本医学会連合
2. 日 時：令和3年8月下旬から10月中予定(土曜または日曜開催)
3. 場 所：オンライン
4. 分科会等の開催：なし

## 5. 開催趣旨：

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、様々な新たな臨床的な課題を引き起こしている。その中には、これまで培ってきた医療・医学の経験や知識から何が起きており、どの様に対応すれば良いかを考えることが出来る現象がある。一方従来の医学的な知識では、予想が困難な経過、影響や後遺症などが引き起こされ、医療現場も困難が生じ、国民の方々の不安も高まっている。この様な新たな課題に直面して、その対策を講じるための医学研究が進められている。以上を踏まえ、本学術フォーラムでは、専門家が、新型コロナウイルス感染症の臨床的な課題とその対策、今後の方向性について、広く国民と共有することを企図して、日本医学会連合とともに企画した。

## 6. 次第：

司会

名越 澄子（日本学術会議第二部会員）

北川 雄光（日本学術会議第二部会員）

開会挨拶

梶田 隆章（日本学術会議会長）

門田 守人（日本医学会連合会長）

「新型コロナウイルスが引き起こす呼吸器感染症について」（仮題）

大曲 貴夫（国立国際医療研究センター国際感染症センター長・  
感染症内科医長）

「新型コロナウイルスと妊娠・出産について」

山田 秀人（手稲溪仁会病院不育症センター長）

「高齢者に生じる新型コロナウイルス感染症」  
岩田 充永（藤田医科大学救急医学・総合内科学）

「新型コロナウイルス感染症が引き起こす脳とこころの問題」  
尾崎 紀夫（日本学術会議第二部幹事）

まとめ  
飯野 正光（日本医学会連合副会長）

閉会挨拶  
武田 洋幸（日本学術会議第二部部長）

（下線は、日本学術会議関係者）

※第 288 回幹事会（第 24 期・令和 2 年 3 月 26 日）において承認済みの公開シンポジウムについて、日時、開催方法等変更するもの。

公開シンポジウム「インセクトワールド ー多様な昆虫の世界 IIー」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会
2. 共 催： 日本昆虫科学連合
3. 後 援： なし
4. 日 時： 令和 3 年 6 月 2 6 日（土）13：00～16：45
5. 場 所： オンライン
6. 分科会等の開催： 開催予定なし
7. 開催趣旨：

地球上には我々に恩恵や害を及ぼすか否かにかかわらず、動物種の 8 割以上を占めるといわれる多様な昆虫が暮らしている。そこで、昨年は一昨年までとは異なり、特に人間との関係にのみ焦点を当てることはせず、多様な視点から昆虫に関わるテーマを取り上げて公開シンポジウムを開催したところ、幸いにも非常に多くの方々に参加していただくことができ、大変好評であった。そこで、本年も昨年のテーマ「インセクトワールド ー多様な昆虫の世界ー」を継続し、昨年のシンポジウムではカバーしきれなかった多様な視点から 5 名の研究者に話題を提供していただく。まず、農研機構（九州沖縄農業研究センター）の矢代博士には、これまで予想もされなかった「シロアリにおけるオスのいない社会の進化」について、本来はオスとメスが共同で社会を営むシロアリにおける“オスを失った社会”についてお話しいただく。つづいて、農研機構（生物機能利用研究部門）の亀田博士には、「ミノムシの生態と糸の特徴」と題し、クモ糸を凌駕する強靱なミノムシの糸の特性とその利用について、大阪府立大学生命環境科学研究科の上田博士には、「アリをめぐる生物の種間関係と共進化」について、アリの巣に寄生するチョウの絶滅要因にも言及しつつご紹介いただく。休憩を挟み、産業技術総合研究所の沓掛博士には「社会性アブラムシ」について社会性の分子基盤などを解説いただき、最後に、玉川大学農学部の小野博士に、「社会性ハチ類の行動生態学」について、集団防衛行動や警報フェロモン等にも言及しつつ基礎と応用の両面からハチ類研究の最前線をご紹介いただく。講演と総合討論の座長は名古屋大学の池田素子教授にお願いする。本シンポジウムが、昆虫をとおして生物の多様性について認識をさらに深める機会となることを期待している。

8. 次 第：

- 13：00 日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会活動報告  
小野 正人（日本学術会議連携会員、玉川大学農学研究科教授）
- 13：20 日本昆虫科学連合活動報告  
志賀 向子（日本昆虫科学連合代表、大阪大学大学院理学研究科教授）

講演

- （座長）池田 素子（日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授）
- 13：35 「シロアリにおけるオスのいない社会の進化」  
矢代 敏久（国立研究開発法人農研機構植物防疫研究部門研究員）
- 14：05 「ミノムシの生態と糸の特徴」  
亀田 恒徳（国立研究開発法人農研機構生物機能利用研究部門ユニット長）
- 14：35 「アリをめぐる生物の種間関係と共進化」  
上田 昇平（大阪府立大学生命環境科学研究科助教）
- 15：05－15：20 （ 休憩 ）
- 15：20 「社会性アブラムシに関する利他行動の分子基板と進化」  
沓掛 磨也子（国立研究開発法人 産業技術総合研究所 生物プロセス研究  
部門主任研究員）
- 15：50 「社会性ハチ類の行動生態学」  
小野 正人（日本学術会議連携会員、玉川大学大学院農学研究科教授）
- 16：20 総合討論  
16：45 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「安全工学シンポジウム 2021」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
2. 共 催：（予定）  
 一般社団法人日本建築学会（幹事学会）、特定非営利活動法人安全工学会、公益社団法人化学工学会、一般社団法人火薬学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、一般社団法人静電気学会、一般社団法人地域安全学会、公益社団法人低温工学・超電導学会、公益社団法人電気化学会、一般社団法人電気学会、一般社団法人電気設備学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本化学会、公益社団法人日本火災学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本技術士会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本高圧力技術協会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、日本信頼性学会、公益社団法人日本心理学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本人間工学会、一般社団法人日本燃焼学会、一般社団法人日本非破壊検査協会、一般社団法人日本溶接協会、一般社団法人日本リスク学会、公益社団法人日本冷凍空調学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会
3. 日 時：2021年6月30日（水）～7月2日（金）9:40～18:50
4. 開催方法：Zoomを用いたオンライン・シンポジウム
5. 分科会の開催：開催予定なし
6. 開催趣旨：  
 わが国における安全に関する学際的なシンポジウムとして学術会議主催で40年以上にわたり継続して実施されてきている。毎年幹事学会が順番で担当し実行委員会を組織しテーマを決めて実施する。2021年度は、第51回として日本建築学会が幹事学会となり企画・運営を行い、「ウイズコロナ時代の安心・安全」のテーマのもと開催される。共催学会名にみられるように多分野の研究者の発表の場であり、意見交換の場ともなっている。異分野間での安全に対する取り組みの差異、あるいは共通する理念について有意義な意見交換が期待でき、日本学術会議総合工学委員会、安全・安心・リスク検討分科会で進めている

「安全目標」、「安心感」、「自動運転」をはじめとする検討成果の広く一般への発表がなされ、多分野の専門家からの意見集約も期待できる。

## 7. 次第（案）：

6月30日（水）

開催挨拶 10:00～10:10

日本学術会議 総合工学委員会委員長

小山田 耕二（日本学術会議第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授）

オーガナイズドセッション 10:20～12:00

「ノンテクニカルスキル教育の今後を探る」

司会 南川 忠男（化学工学会安全部会）

オーガナイズドセッション 10:20～12:10

「レジリエンス・エンジニアリングと安全諸理論」

司会 芳賀 繁（社会安全研究所）

オーガナイズドセッション 10:20～12:10

「人災の視点からの防災対策」

司会 桑野 借紀（日本ヒューマンファクター研究所）

オーガナイズドセッション 12:50～14:50

「水素エネルギー技術の社会実装におけるリスクを考える～水素ステーションを中心に～」

司会 伊里 友一郎（横浜国立大学）

オーガナイズドセッション 15:10～17:10

「危機管理における労働・地域・セキュリティ等のレジリエンス向上を目指す手法の開発と課題」

司会 有友 春樹（河川情報センター）、高橋 亨輔（香川大学）

7月1日（木）9:40～12:20、13:00～18:50

基調講演 9:40～10:40

「”産業安全行動分析学”の原理に基づく、新たな生活習慣、有益な生産活動のために（仮題）」

講演者：北條 理恵子（労働安全衛生総合研究所）

オーガナイズドセッション 10:50～12:20

「産業安全行動分析学を用いた機械安全の考え方」

司会 北條 理恵子（労働安全衛生総合研究所）

オーガナイズドセッション 10:20～12:20

「外部要因による事故・災害（自然災害、人災）への対応」

司会 新井 充（東京大学名誉教授）

オーガナイズドセッション 10:20～12:20

「需要設備のスマート保安に関する最新動向」

司会 西村 和則（広島工業大学）

特別講演 13:00～14:00

「COVID-19 と建築空気環境」

講演者：大岡 龍三（東京大学生産技術研究所教授）

連携パネルディスカッション 14:10～16:10

「ウイズコロナ時代の安全・安心」

司会 原田和典（京都大学教授）

パネリスト 小山真紀（岐阜大学准教授）、長谷見 雄二（早稲田大学名誉教授）、村上道夫（日本リスク学会理事、福島県立医大 医学部教授）ほか

オーガナイズドセッション 14:10～16:10

「安全性設計と信頼性設計」

司会 土屋 英晴（クオルテック）

オーガナイズドセッション 14:10～15:50

「土木工学における安全問題」

司会 大幢 勝利（労働安全衛生総合研究所）

オーガナイズドセッション 16:30～18:30

「組織行動からの事故などの未然防止」

司会 新井 充（東京大学）

オーガナイズドセッション 16:30～18:30

「自動運転の社会実装に向けた取り組み」

司会 永井 正夫（日本学術会議連携会員、一般財団法人日本自動車研究所代表理事・研究所長）、鎌田 実（日本自動車研究所）

オーガナイズドセッション 16:10～18:10

「避難が難しい人の火災時の避難安全を考える」

司会 萩原 一郎（日本学術会議連携会員、東京理科大学教授）

フォーラム 18:20～18:50

「避難が難しい人の火災時の避難安全を考える」

司会 萩原 一郎（日本学術会議連携会員、東京理科大学教授）

7月2日（金）10:00～12:00、12:50～18:00

オーガナイズドセッション 10:00～12:00

「安心感側からみた「安全と安心」」

司会 大倉 典子（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学名誉教授・SIT総合研究所特任教授）、辻 佳子（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

パネルディスカッション 12:50～14:50

「化学物質管理が創る安全・安心な社会—SAICMの社会実装」

司会 北野 大（秋草学園短期大学 学長）

パネリスト 北野 大（秋草学園短期大学 学長）、坂田 信以（日本化学工業協会 常務理事）、中村 洋介（住友化学）、和田 康（花王 常務執行役員）ほか

オーガナイズドセッション 12:50～14:00

「風水害への航空宇宙分野からの取り組み(仮)」

司会 原田 賢哉（宇宙航空研究開発機構）

パネルディスカッション 15:00～17:10

「リスクアプローチは、どこまで可能性に迫れるか？」

司会 野口 和彦（日本学術会議連携会員、横浜国立大学 I A S リスク共生社会創造センター客員教授）

パネリスト 浅間 一（東京大学大学院工学系研究科教授）、柴山 悦哉（日本学術会議第三部会員、東京大学情報基盤センター教授）、須田 義大（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）、永井 正夫（日本学術会議連携会員、一般財団法人日本自動車研究所代表理事・研究所長）、松岡 猛（日本学術会議連携会員、宇都宮大学地域創生推進機構非常勤講師）、向殿 政男（日本学術会議連携会員、明治大学名誉教授）、澁谷 忠広（横浜国立大学 IAS リスク共生社会創造センター センター長）、中村 昌允（日本学術会議特任連携会員、東京工業大学環境・社会理工学院イノベーション科学系・技術経営専門職学位課程特任教授）、小野 恭子（国立研究開発法人 産業技術総合研究所）ほか

フォーラム 17:20～18:10

「安全・安心・リスク」

司会 大倉 典子（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学名誉教授・SIT 総合研究所特任教授）、辻佳子（日本学術会議連携会員、東京大学教授）、北野 大（秋草学園短期大学学長）、野口 和彦（日本学術会議連携会員、横浜国立大学 I A S リスク共生社会創造センター客員教授）

その他、一般講演 9 セッション予定

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は主催分科会委員）

※ 今後の状況によっては公開シンポジウムを中止・延期・開催方法変更の可能性あり

公開シンポジウム「コロナ下において考えるべき栄養」の開催について

1. 主催:日本学術会議 食料科学委員会・農学委員会・健康生活科学委員会 合同 IUNS 分科会
2. 共催:公益社団法人日本栄養・食糧学会
3. 日時:令和3年7月3日(土)15:00~17:00(予定)
4. 場所:ウェブ開催
5. 分科会等の開催:当日は開催しない

6. 開催趣旨:

国際栄養科学連合(IUNS)は、1948年に、栄養科学における研究ならびに学術情報の交換をすることを主な目的として設立された組織であり、約4年に1度、国際栄養学会議(ICN)を開催している。本年9月にICNを東京で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、このICNを来年12月に延期した。そこで、来年東京で開催するIUNS-ICN2022に向けて、日本国内においても、栄養に対する関心を高め、人々の健康の増進に寄与することを目的として、公開シンポジウム「コロナ下において考えるべき栄養」を企画した。本シンポジウムでは、微生物学、医学、栄養学の専門家に、新型コロナウイルスの基礎知識、免疫力を高め、感染症を予防するための食事等についてご講演いただき、栄養学的観点から感染症を予防するにはどうすれば良いかを考える機会を提供する。

7. 次第:

15:00~15:10 開会の挨拶・概要説明

熊谷 日登美(日本学術会議第二部会員、農学委員会・食料科学委員会・健康生活科学委員会合同 IUNS分科会委員長、日本大学生物資源科学部教授)

15:10~15:35 「新型 コロナ ウイルスの脅威を制する正しい知識」

水谷 哲也(東京農工大学未来疫学研究センター教授)

15:35~16:00 「新型コロナウイルス感染症の予防に関する栄養学的提言」

鷺澤 尚宏(東邦大学医療センター教授)

16:00~16:25 「免疫能を高める栄養」

酒井 徹(徳島大学大学院医歯薬学研究部教授)

16:25~16:50 「感染症を予防する食事」

石田 裕美(女子栄養大学栄養学部教授)

16:50～17:00 総括・閉会の挨拶

稲垣 暢也 (日本学術会議連携会員、農学委員会・食料科学委員会・健康生活科学  
委員会合同 IUNS分科会副委員長、京都大学大学院医学研究科教授)

8. 関係部の承認の有無:第二部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「生存情報学—人類的、社会的課題に対して、情報学として  
いかに取り組み生き延びるか」の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会環境知能分科会

2. 共 催：なし

3. 後 援：公益社団法人日本工学アカデミー（予定）、一般社団法人情報処理学会（予定）、他

4. 日 時：令和3年7月19日（月）14：30～17：00

5. 場 所：Web 開催

6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：コロナ禍で情報の生成・探索・表現・蓄積・管理の道具であった情報学は生き残るための道具（生存情報学）へとパラダイムシフトした。生存情報学には（領域1）感染症や自然災害などから人や生物の個々が生き残る情報学と（領域2）自然環境（E）・人間/生物社会（S）・ガバナンス（G）のバランスを維持する情報学の2領域がある。生存情報学によりダイバシティ&インクルージョンやSDGsを実現する社会を構築し、生存に関する様々な学術分野と連携し、新たな価値を生み出すために、何をなすべきかについて、種々の分野から講演者をお招きし、ディスカッションする。

8. 次 第：

14：30 開会あいさつ

萩田 紀博（日本学術会議第三部会員、大阪芸術大学アートサイエンス学科長、教授）

14：40 心理学・脳科学からみたナッジ、これからの研究テーマ（仮題）

川合 伸幸（日本学術会議連携会員、名古屋大学教授）

15：00 哲学に情報学は役立つか（仮題）

小山 虎（山口大学講師）

15：20 人間がロボットになることを阻むもの

石黒 浩（大阪大学名誉教授）

15：20—15：50 未来社会創造—パンデミックを超えて—（仮題）

濱口 道成（国立研究開発法人科学技術振興機構理事長）

15 : 50 - 16 : 00 ( 休憩 )

16 : 00 総合討論

(司会) 土井美和子 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構監事、東北大学理事、奈良先端科学技術大学院大学理事)

(コメンテーター)

川合 伸幸、小山 虎、石黒 浩、濱口 道成、萩田紀博、  
橋本 隆子 (日本学術会議連携会員、千葉商科大学副学長、教授)  
灘本 明代 (日本学術会議連携会員、甲南大学教授)

17 : 00 閉会あいさつ

土井 美和子 (土井美和子 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構監事、東北大学理事、奈良先端科学技術大学院大学理事))

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム

「ジェンダード・イノベーション (Gendered Innovations)

～ 一人ひとりが主役の研究開発が、新しい未来を拓く ～」の開催について

1. 主催：

日本学術会議第三部、日本学術会議中国・四国地区会議、日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会（予定）、国立大学法人広島大学

2. 共催：(予定)

(中国・四国地区の大学)

愛媛大学、岡山大学、香川大学、高知工科大学、高知大学、島根大学、徳島大学、鳥取大学、鳴門教育大学、山口大学（他、確認中）

(中国・四国地区において実施中の、文部科学省事業の採択プログラム)

『ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ』

国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム（牽引型、代表：広島大学）

四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト（牽引型、代表：徳島大学）

SAN' IN ダイバーシティ推進ネットワーク（牽引型、代表：島根大学）

やまぐちダイバーシティ推進加速コンソーシアム（牽引型、代表：山口大学）

SHINE プログラム（先端型、岡山大学）

『世界で活躍できる研究者戦略育成事業』

地方協奏による世界トップクラスの研究者育成(HIRAKU-Global)（代表：広島大学）

3. 後援：公益財団法人日本学術協力財団（予定）

4. 日時：令和3年8月18日（水）13：30～17：45（予定）

5. 場所：広島大学（Zoom ウェビナーによるオンライン開催）

6. 分科会等の開催：日本学術会議第三部会開催（日時未定）

7. 開催趣旨：

ジェンダード・イノベーションは、研究開発や政策に性差分析を組み込むことで、新たな視点や方向性を見だし、真のイノベーションを創出するという概念である。創薬の過程で性差によるホルモンの違いを無視したことによって発生した健康リスクや、無意識のジェンダーバイアスがビッグデータに含まれていることに気づかずに開発してしまった製品等、性差を無視した研究から多くの誤りが現れている。そのため既に欧米では、研究資金提供や論文採択の際に性差

分析の有無が重要視されている。さらに、2020年以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、ウイルスの影響の受け方が性差によって異なる、あるいは、社会的に弱い立場にある割合に性差がある、など、命に直接かかわる喫緊の課題として、性差を考慮に入れた研究、それに基づく施策や社会実装の必要性が、世界的に強く認識されるようになってきている。

我が国においても、第5次男女共同参画基本計画（2020年12月25日閣議決定）、及び、第6期科学技術・イノベーション基本計画（2021年3月26日閣議決定）のなかで、ジェンダード・イノベーションの重要性が明記されている。しかし、その概念や意義が、必ずしも日本の学界・産業界に浸透しているとはいえない。そこで、本シンポジウムのテーマとし、認識と理解の深化を図る。

さらに、このシンポジウムを公開とすることにより、研究開発や社会活動のあらゆる場面において、さまざまな視点と角度から検討し取り組むことの重要性を、社会のあらゆる立場の方々に対して発信する。これは、持続可能な開発目標（SDGs）の実現にも不可欠である。あらゆる世代の方々、とくに、次代を担う若い世代の方々に対し、「他人事」ではなく、「自分事」として自覚し行動することが重要であることを示す。

## 8. 次第：

総合司会 北川 尚美（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科教授）

13：30 開会挨拶

梶田 隆章（日本学術会議第三部会員・会長、東京大学宇宙線研究所教授）

吉村 忍（日本学術会議第三部会員・部長、東京大学副学長・大学院工学系研究科教授）

越智 光夫（日本学術会議第二部会員、広島大学学長）

13：40～14：00 趣旨説明

渡辺 美代子（日本学術会議連携会員、JST 副理事・ダイバーシティ推進室室長）

14：00～14：45 基調講演（講演30分＋質疑応答15分）

「自然科学、医学、工学におけるジェンダード・イノベーション（仮）」

Londa Schiebinger（スタンフォード大学教授）（Zoomライブ講演予定）  
（同時通訳）

14：45～14：55 休憩（ZoomのQ&A機能で質問や意見を収集）

14 : 55～15 : 05 講演 1

「ジェンダー平等はどこまで進んでいるのか:データから見える姿とその未来  
(仮)」

相田 美砂子(日本学術会議第三部会員、中国・四国地区会議代表幹事、  
広島大学特任教授・学長特命補佐)

15 : 05～15 : 15 講演 2

「ジェンダーバイアスの科学 (仮)」

森永 康子 (広島大学大学院人間社会科学研究科教授)

15 : 15～15 : 30 講演 3

「ICT の活用でダイバーシティ推進を (仮)」

平川 正人 (島根大学総合理工学部教授)

15 : 30～15 : 45 講演 4

「人間中心の設計思想 (仮)」

〇〇 〇〇 (マツダ株式会社 〇〇〇〇)

15 : 45～16 : 00 講演 5

「薬物有害事象の発現リスクにおける性差分析」

石澤 有紀 (徳島大学大学院医歯薬学研究部准教授)

16 : 00～16 : 15 講演 6

「性差医療の現状と今後の展望」

片岡 仁美 (岡山大学病院ダイバーシティ推進センター教授)

16 : 15～16 : 30 休憩 (Zoom の Q&A 機能で質問や意見を収集)

16 : 30～17 : 40 パネルディスカッション「「他人事」ではなく「自分事」に (仮)」

モデレータ 堀 利栄(日本学術会議第三部会員、愛媛大学大学院理工学研究  
科教授、副学長 (ダイバーシティ担当)) (専門=地球惑星科学)

パネリスト (10 名) (Prof. Schiebinger は、時差のため無理なため依頼せず)

・趣旨説明の演者

1. 渡辺 美代子 (総合工学) (日本学術会議連携会員、JST 副理事・ダイバ  
ーシティ推進室室長)

・講演 1～講演 6 の演者

2. 相田 美砂子 (化学) (日本学術会議第三部会員、中国・四国地区会議代  
表幹事、広島大学特任教授・学長特命補佐)

3. 森永 康子 (社会心理学) (広島大学大学院人間社会科学研究科教授)
4. 平川 正人 (情報システム学) (島根大学総合理工学部教授)
5. ○○ ○○ (マツダ株式会社○○○○)
6. 石澤 有紀 (薬理学) (徳島大学大学院医歯薬学研究部准教授)
7. 片岡 仁美 (臨床医学) (岡山大学病院教授)

・講演者以外のパネリスト

8. 伊賀瀬 道也 (抗加齢医学) (愛媛大学大学院医学系研究科教授)
9. 今村 維克 (化学工学) (岡山大学大学院自然科学研究科教授)
10. 高山 弘太郎 (環境農学) (日本学術会議第二部会員、豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授、愛媛大学大学院農学研究科教授)

(討論の進め方)

- ・講演者以外のパネリスト3名に、各5分程度で各視点から問題提起をしていただく。
- ・Q&Aに投稿された質問や意見をふまえて、モデレータが討論を進める。

(共有したい視点)

- ・科学的に違いを認識することによって、さらに研究は進展し、社会は発展する。
- ・若い世代が、その中に積極的に関わる意識をもつようにすることが必要

17:40 閉会挨拶

相田 美砂子(日本学術会議第三部会員、中国・四国地区会議代表幹事、  
広島大学特任教授・学長特命補佐)

17:45 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認、科学者委員会承認

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

公開シンポジウム「オープンサイエンスをめざしたデジタル農業の胎動」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分会  
日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分会  
日本生物環境工学会
2. 後 援： 日本農業工学会、農業情報学会、農業食料工学会、農業農村工学会、農業施設学会、日本農業気象学会、生態工学会、園芸学会（すべて予定）
3. 日 時： 令和3年9月8日（水）13:15～15:50
4. 場 所： 神戸大学農学部 C101 教室（神戸市灘区六甲台町1-1）  
（オンライン開催に変更する可能性あり）
5. 分科会等の開催： なし

6. 開催趣旨：

情報技術革新の波が食料・農業・農村の分野にも広く普及しつつあり、データや情報を人々が共有することにより、懸案である気候変動や食料・資源・エネルギーおよび後継者減少や高齢化、格差の拡大などの深刻な諸問題の同時解決の道筋が模索できるようになってきた。内閣府は戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)において農業分野のスマートフードチェーン構築とスマート農業技術を取り上げ、農林水産省はスマート農業加速化事業を推進しており、今後も府省を問わず急進的イノベーションによる大がかりな社会システム変革プログラムが提案されるものと考えられる。一方、農業現場では革新的な新技術に対する期待と戸惑いがあり、「技術は豊かだが応用が貧困」の懸念をもちつつ、スマート農業の実行により産み出される膨大なデータの取り扱い方法の模索をはじめている。

本シンポジウムでは、急進的農業イノベーションの期待と展望に注目する一方、データの共有化とオープンサイエンスの広がりに着目し、変貌しつつある農業の実態やその展望について学術交流し、農業の将来展望を広く市民と共有することに資する。

7. 次 第：

司会：彦坂晶子（日本学術会議連携会員、千葉大学園芸学研究所准教授）

13:15-13:25 開会の挨拶

澁澤 栄（日本学術会議連携会員、東京農工大学特任教授・慶應義塾大学特任教授）

13:25-14:05 オープンサイエンスの広がり と 農業（仮）

池谷 瑠絵（情報・システム研究機構リサーチ・アドミニストレーター）

14:05-14:45 SDGs2030 をめざした破壊的農業イノベーションの課題（仮）

野口 伸（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院農学研究院教授）

14:45-15:00 休憩

15:00-15:40 SDGs2030 をめざした革新的植物工場システムの課題と展望（仮）

高山 弘太郎（日本学術会議第二部会員、豊橋技術科学大学機械工学系教授・愛媛大学農学  
研究科教授）

15:40-15:50 閉会の挨拶

安永 円理子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認  
（下線の講演者等は、会員および分科会委員）

以上

公開シンポジウム

「進化・発生・メカニカルストレスから探る顎顔面形成・維持機構最先端」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会 臨床系歯学分科会
2. 共 催：公益社団法人 日本矯正歯科学会
3. 後 援：
4. 日 時：令和3年11月5日（金） 10：30～12：30(予定)
5. 場 所：パシフィコ横浜
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

将来に向けて、口腔科学研究をより迅速に展開し、科学的な基盤に立脚した新たな歯科臨床を構築するためには、改めて顎顔面の形成・維持機構を再考して咀嚼器官の成立過程の時間的・機能的な変化とメカニズムの理解を深めることが重要です。重力の働く地球上に誕生した全ての生物の進化や生体組織のリモデリングには、力学的な刺激（メカニカルストレス）が常に影響を及ぼすために、骨格形成の進化的理解とともに哺乳類の骨格維持機構の理解が必要です。さらに、我国における健康長寿社会の推進には、すべてのライフステージにおける顎顔面の形態と機能の維持が不可欠です。そのためには、骨格、特に顎顔面骨、の進化的理解とメカニカルストレスを基盤とし、その形成・維持機構の理解を深めて、エビデンスに基づいた治療を創出することが重要です。このようなアプローチは、荷重を治療の手段として用いている現在の矯正歯科の診断や治療にも有用であり、大切なヒントを与えてくれます。

8. 次 第：

開会挨拶

市川哲雄先生（日本学術会議会員歯学委員会委員長、徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔顎顔面補綴学分野 教授）

基調講演

司会（座長）；

井関祥子先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 分子発生学分野 教授）

槇宏太郎先生（昭和大学歯学部 歯科矯正学講座 教授）

講師；

倉谷滋先生（日本学術会議連携会員、理化学研究所開拓研究本部 倉谷形態進化研究室 主任研究員）（予定）

シンポジウム

司会（座長）；

山口朗先生（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学名誉教授、東京歯科大学口腔科学研究センター 客員教授）

森山啓司先生（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野 教授）

講師；

中島友紀先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 分子情報伝達学分野 教授）

上岡寛先生（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 歯科矯正学分野 教授）  
（予定）

総合討論

9. 関係部の承認の有無： 第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「原発事故から10年ーこれまで・今・これからの農業現場を考える」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会・IUSS 分科会
2. 共 催：(一社) 日本土壌肥料学会、  
国際土壌科学連合 (IUSS)
3. 後 援：福島県農業総合センター、福島大学、農研機構
4. 日 時：令和3年11月5日(金) 10:20~16:30
5. 場 所：パルセいいざか(〒960-0201 福島県福島市飯坂町筑前27-1)
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

東日本大震災と、それに伴う原子力発電所の事故により発生した大量の放射性物質による広大な農地の汚染から10年が経過した。しかしながら、いまだに帰還困難区域が残されており、放射性物質による汚染の問題は完了していない。一方で、震災直後には生産が停止した多くの農地において、農地除染、あるいはまた残存する放射性セシウムのカリ施肥による移行抑制対策によって農産物中の放射性セシウム濃度を十分に低下させることに成功した。日本土壌肥料学会は震災後初期からHP等で数多くの情報を発信すると同時に、構成する多くの学会員が積極的に様々な観点からこの問題に取り組んできた。震災から10年を経過した節目にこれまでに蓄積した知見の集大成を行い、学会員がどのようにこの問題の解決に貢献してきたのかを総括する必要がある。そこで、土壌肥料学という一見地味な学問体系が農業現場に発生した問題に対して、その基盤的な知識と経験に基づいて多くの解決策を示したことを広く周知するとともに、今後の学術的な貢献の道筋や課題についても展望する。

8. 次 第：

- 10:20 趣旨説明  
波多野隆介 (日本学術会議連携会員、北海道大学農学研究院教授、  
日本土壌肥料学会前会長、IUSS 第2部門長)
- 10:30 はじまりは地震と共に：成果を繋ぐ研究の進展  
塚田祥文 (福島大学環境放射能研究所教授)
- 11:00 農地土壌の放射性物質濃度分布図の作成について (仮題)  
前島勇治・高田裕介・神山和則 (農研機構)

- 11：30 汚染農地の除染—福島県の取り組みと問題点  
齋藤 隆（福島県農業総合センター）
- 12：00—13：00 （ 休憩 ）
- 13：00 動きにくいセシウムの2つのかたち  
山口紀子（農研機構）
- 13：30 作物を放射能汚染から守る黄砂の力  
中尾 淳（京都府立大学生命環境科学研究科准教授）
- 14：00 カリウム肥料を撒くことの効果—水稻—  
藤村恵人（農研機構）
- 14：30—14：40 （ 休憩 ）
- 14：40 ダイズの放射性セシウム濃度が高い理由  
二瓶直登（福島大学農学群食農学類准教授）
- 15：10 水稻におけるセシウムの吸収と体内での動き  
古川 純（筑波大学アイソトープ環境動態研究センター准教授）
- 15：40 これから歩む道  
信濃卓郎（日本学術会議連携会員（予定）、北海道大学農学研究院教授）
- 16：00 総合討論  
（司会）信濃卓郎（日本学術会議連携会員（予定）、  
北海道大学農学研究院教授）
- 16：30 閉会の言葉  
妹尾啓史（東京大学農学生命科学研究科教授、日本土壌肥料学会会長）

9. 関係部の承認の有無：第2部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「キャビテーションに関するシンポジウム（第20回）」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 機械工学委員会

2. 共 催(予定)：一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人農業農村工学会、一般社団法人ターボ機械協会、一般社団法人日本航空宇宙学会、一般社団法人可視化情報学会、一般社団法人日本流体力学会、一般社団法人日本フルード・パワーシステム学会、公益社団法人日本マリンエンジニアリング学会、一般社団法人日本トライボロジー学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人火力原子力発電技術協会、日本混相流学会、一般社団法人日本ウォータージェット学会、一般社団法人日本生体医工学会、公益社団法人日本金属学会、公益社団法人日本材料学会、公益社団法人腐食防食学会、公益社団法人日本超音波医学会、日本ソノメトリ学会、非線形音響研究会、公益社団法人自動車技術会、日本液体微粒化学会

3. 日 時：令和3年12月 9日(木) 13:00~18:00  
令和3年12月10日(金) 9:00~16:00

4. 場 所：オンライン (zoom を使用予定)

5. 分科会の開催：開催なし

6. 開催趣旨：

日本学術会議機械工学委員会（従来は水力学・水理学専門委員会）の主催により、これまで19回（昭和50年5月19日、昭和53年4月6日、昭和58年10月3,4日、昭和60年6月17,18日、昭和62年6月16,17日、平成元年6月13,14日、平成4年10月13,14日、平成7年12月1,2日、平成9年10月30,31日、平成11年11月4,5日、平成13年9月28,29日、平成16年3月18,19日、平成18年6月2,3日、平成20年3月19,20日、平成22年11月22,23日、平成24年11月23,24日、平成26年11月20,21日、平成28年12月8,9日、平成30年10月18,19日）行われている。第2回以降は上記の学協会が共催しており、毎回100名程度が参加している。

今回は、キャビテーションに関連した論文の発表と討論を2日間にわたって行い、当該研究分野の知見を高めることを目的として開催する。

7. 次 第：

【12月9日】

- 13:00 A室 開会の挨拶 梶島 岳夫 (日本学術会議連携会員、大阪大学)
- 13:10 A室 セッションA1  
B室 セッションB1
- 15:00 A室 特別講演  
「世界最高強度のパルス中性子源水銀標的におけるキャビテーション現象」  
講師 二川 正敏 (日本原子力開発機構 J-PARC センター  
・特別専門職)  
司会 高木 周 (日本学術会議連携会員、東京大学)
- 16:00 A室 特別企画1「キャビテーションのモデリングと数値解析手法」  
B室 セッションB2

【12月10日】

- 9:00 A室 セッションA2  
B室 セッションB3
- 12:00 (休憩)
- 13:30 A室 セッションA3  
B室 特別企画2「化学プロセス応用」
- 17:20 A室 閉会の辞 伊賀 由佳 (東北大学流体科学研究所・教授)
- 16:00 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の登壇者は、主催委員会委員)

※セッションA、Bには気泡力学、気泡流、流体機械のキャビテーション、翼・翼列、騒音、振動等を予定しているが、講演発表の申込日締切日が、7月30日(金)のため、各セッションで題名、著者名は未定である。今回も昨年度と同程度の規模で、一般セッション講演約30件、特別企画セッション10件程度を予定している。

※第 286 回幹事会（第 24 期・令和 2 年 1 月 30 日）において承認済みの公開シンポジウムについて、日時、開催場所、構成等変更するもの。

公開シンポジウム「口腔疾患の予防・治療・保健教育の場も喫煙防止・禁煙支援指導などの喫煙対策の場として活用すべきである」の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会
2. 共 催：日本顎顔面インプラント学会、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会
3. 後 援：日本歯学会連合、日本医学会連合、日本生命科学アカデミー、  
口腔 9 学会合同脱タバコ社会実現委員会、公益財団法人国際医療財団
4. 日 時：令和 3 年 1 2 月 1 2 日（日） 1 4：2 0～1 7：0 0
5. 場 所：名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）  
※第 25 回日本顎顔面インプラント学会学術大会併催  
※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン開催に変更
6. 分科会の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨：

現在全国の喫煙率は減少傾向にあるとはいえ、国が目標として掲げた「2022 年までに喫煙率の半減」の達成は確実ではない。加えてタバコ産業は加熱式タバコなど新たなタバコ製品を市場に投入し、タバコへの批判をそらし、結果としての喫煙人口の維持拡大を図っている。従って脱タバコ社会を目指す日本学術会議としてもこうした状況を分析検討し、タバコ対策を見直すことが迫られている。

喫煙関連疾患の中で歯周病はあらゆる年齢層にみられ、有病率が高く、かつ慢性に経過するため、その予防・治療・保健教育の場は、絶好の喫煙防止・禁煙支援の場を提供している。WHO は「口腔保健・医療従事者・専門家は、多数喫煙者に接することができるので喫煙者の禁煙誘導に関し重要な潜在的可能性を持っている」と指摘し、さらに、「日常的に喫煙による口腔への影響を観察しているため、喫煙の害を強く懸念している」とも述べている。

口腔疾患医療の場は、患者が直接口の中を見て喫煙の影響を確認し、あるいは唾液検査から喫煙・受動喫煙の程度を把握する機会を提供することが可能であり、禁煙への動機づけに適した場の一つである。また、歯周病に対しては継続的な治療とメンテナンスが必要であり、外来受診は長期間にわたる。そのため、歯周病治療の場は禁煙治療の場としても適している。禁煙外来で効果を上げるためには継続的な受診が必要だからである。実際、歯科診療の場での禁煙支援の効果は、既に多くの研究で実証されている。しかし、我が国では口腔疾患の予防・治療の場を喫煙防止・禁煙支援の場として活用する体制が整備されているとは言い難い。この点を中心に、広く市民とともに議論するために、本公開シンポジウムを計画した。

8. 次 第：

総合司会

長尾 徹（愛知学院大学歯学部顎顔面外科学講座主任教授、第25回日本顎顔面インプラント学会総会学術大会 大会長）

14:20～14:30

開会の挨拶：岸玲子日本医学会連合副会長（代理：秋葉澄伯（日本医学会連合監事、日本学術会議連携会員））

セッション1 14:30～15:00

座長：中村正和（公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センターセンター長）

講演：村上伸也（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院歯学研究科教授）

「喫煙防止・禁煙指導における歯科と医科の連携 — 日本学術会議からの提言案の紹介」

セッション2 15:00～15:30

座長：山下喜久（日本学術会議連携会員、九州大学大学院歯学研究院教授）

講演：長尾徹（愛知学院大学歯学部顎顔面外科学講座主任教授）

「口腔9学会の多施設禁煙介入研究（日本歯科医学会プロジェクト研究＋科研費基盤研究）の成果」

セッション3 15:30～16:00

座長：福田仁一（学校法人平松学園大分歯科専門学校校長）

講演：稲垣幸司（愛知学院大学短期大学部歯科衛生科教授）

「歯科外来における禁煙支援外来の役割」

セッション4 16:00～16:30

座長：瀬戸暁一（総合南東北病院口腔がん治療センター長）

講演：中村正和（公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センターセンター長）

「研究成果を制度につなげる—学術団体としての役割」

全体討論 16:30～16:50

座長：山下喜久（日本学術会議連携会員、九州大学大学院歯学研究院教授）

福田仁一（学校法人平松学園大分歯科専門学校校長）

指定発言：埴岡隆（日本学術会議特任連携会員、福岡歯科大学口腔歯学部教授）

16:50～17:00

閉会の挨拶：未定（日本歯科医学会連合副理事長）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）